

分娩事故によるロスを減らそう

■分娩事故の発生状況と傾向■

ホルスタイン種の母牛が受胎した胎子・子牛の約9%は、死産によって失われています。また、乳用胎子・子牛の死産事故のうち死産の割合は、約67%に達しています(図1)。

※ここでの死産は、胎齢240日以上の子牛の死亡あるいは、出生当日に死亡・廃用になった子牛を示しています。



図1 乳用胎子・子牛の死産事故に占める死産の割合

(H26 北海道の家畜共済実績)

死産が経営に与える影響は、図2に示したように深刻なものです。また、一般的に死産の発生には、表1のような傾向があると言われています。

表1 死産発生の傾向

死産の発生	要因			
	多い	冬季	多胎分娩	初産母牛
少ない	夏季	単胎分娩	経産母牛	雌子牛

※参考文献

『検定検査乳S No.33 (事故対策が求められる「死産」)』より引用

『乳牛と新生子牛のための分娩管理 (帯広畜産大学准教授 石井三都夫先生)』

酪農セミナー搾乳後継牛の安定的確保を目指して〈講演内容集より〉



図2 死産が酪農経営に与える影響

4. 適切な監視と介助
 出産が近づいたら(分娩の兆候が現れたら)監視を強化し、不測の事態に備えます。また、早すぎ

O.K!

- 広い ○柔らかく滑らない床
- 敷料が豊富 ○寝起きしやすい
- 単独になれる (ただし、他の牛を見ることができる)

NG!

- ×狭い ×硬く、滑りやすい床
- ×敷料が少ない
- ×首をつながれている
- ×寝起きしづらい

できるだけ改善を!

図3 分娩環境の確認

3. 分娩環境の確認(図3)
 いずれかの方法を検討します。

③ 性別別精液(通常よりも受胎率が低い傾向があります)を利用

② 黒毛の精液や受精卵を利用

① 分娩難易度の低い種牛を選択

2. 精液の選択
 体の小さな牛や初産牛が、難産になるリスクを減らすために

1. 初産牛に注意!
 交配時は体高(125cm以上)を確認し、交配します。また、分娩時まで十分に成長(140cm・600kg以上)できるように管理を行います。

■分娩事故への対策■
 1. 初産牛に注意!
 交配時は体高(125cm以上)を確認し、交配します。また、分娩時まで十分に成長(140cm・600kg以上)できるように管理を行います。

5. 子牛への対応
 や過剰・強引な介助を避けま。呼吸の確認(必要であれば、人工呼吸器などで適切な対応を行います)。
 ・濡れている子牛の体を早く乾かします。
 ・良質な初乳をできるだけ早く(6時間以内に)、飲めるだけ給与します。
 ・臍帯の消毒を行います。

検定成績表(個体検定日成績)
 [AT検定法] [朝検定]

名	号	分		検				
		年	月					
		26.	11.	17	8	♀	2	2
		26.	7.	11	11	♀	2	1
		27.	2.	11	7	♀	2	1
		27.	4.	19	7	♂	2	1
		27.	4.	28	1	♂	2	1

乳検 検定成績表(個体検定日成績表)より

6. 乳検データをを用いて分娩事故率を管理
 検定成績表(個体検定日成績)の『分娩』『性別』欄に「死産」と記載されている頭数を数えて、全体の頭数で割ると分娩事故率が得られます。もし、5%以上であれば、原因を確認し、対策を図りましょう。

